京都帝國大學新聞
每月三回一日發行
發行所 學友會新聞部
發行編輯兼印刷人 入山雄二

洋服は寺町通丸太町南 ナガヤ 電上四六三番

獨逸の工科大學 (下)

工學部敎授　西原利夫

獨逸のウニフエルジテートの起源は既に十四世紀の半頃カロロ四世時代に始つてその多くが數百年の歷史を有してゐるのに反して、テヒニツセ・ホーホシユーレは創立百年前後のもの多く、ホーホシユーレに昇格したのは十九世紀の終即ち今から僅に約五十年前のことである。たとへば今日現存するものゝ中でもハイデルベルヒ、ライプチヒ、ロストツク等のウニフエルジテートは十四世紀末乃至十五世紀初の創立であるが、ベルリンのテヒニツセ・ホーホシユーレの前身テヒニツセ・インスチチユートが出來たのは一八七九年である。これがウニフエルジテートがハイデルベルヒとかゲツチンゲンとかボンとかいふ今日では比較的田舍である土地にある理由であつて、之等地方は中世紀時代には文化の中心地であつたに違ひない。工科方面の敎育は最初ゲヴエルベシユーレ或はポリテヒニクムでやつてゐたのであるが、一八七七年頃から、獨逸國內及墺太利瑞西の委員が集まつてその統一昇格について會議を開き、プロシヤには先づハノーフアーとアーヘンにテヒニツセホーホシユーレが出來、次いでベルリンではバウアカデミーとゲヴエルベアカデミーとが合併昇格して一八八二年現在のシヤルロツテンブルグの建物に移つた。約同じ頃に獨逸聯邦の他の王侯國の首都にも一ツづゝホーホシユーレがつくられた。それが工科大學が都會地にのみある理由である。瑞西にはチユーリに一箇墺太利にはウイーン、プラーグ其他に五箇の工科大學があるが獨逸のそれと制度は全く同じである。

前述の樣にウニフエルジテートとテヒニツセ・ホーホシユーレとはその成立その歷史が全く異つてゐる爲か何となく其間に反目乃至は敵愾心の樣なものがあり、ウニフエルジテートの方ではホーホシユーレの新參者に何が出來るものかといふ氣があり、ホーホシユーレの方でもウニフエルジテートの連中は机上の論ばかりをしてゐて實際役に立つ樣なことは案外出來やしない、我々はこれ〳〵の研究實績を擧げてゐるではないかといふのである。一般にホーホシユーレの方にはかういふ負けぬ氣がある位に自信や熱心があつたゝめ、今日迄の樣な業績を擧げ又その地位と歷史とを築き上げることが出來たのだらうと思ふ。

最後に日本と獨逸との工科大學學生の數を比較してみるに、我國の人口は獨逸の人口と略ぼ等しくいづれも大約七千萬であるが、我國五大學の工學部の學生收容人員は每年八百人に過ぎず、これに早稻田大學の理工科を加へても千人を超えまいと思ふ。獨逸はダンチヒを除いても一九二四—五年の在學學生數は二萬三千人あり、內輪に見立つてかりにその四分の一が每年入學するとして約六千人であつて我國の六倍近くにあたる。即ち我々の各々が彼等の六倍の勉强をし彼等の六人前の仕事をせなければならぬことになる。更に數歩を讓つて我國の高等工業學校等の專門學校二十校の入學人員二千五百名を前の八百名に加算しても三千五百人に過ぎぬ。勿論我國は獨逸とは國情も異ふし工業的の歷史も長くはないためでもあるが、單に世界に於ける工業國といふ點のみからいつても、我國が獨逸の向ふを張り得る樣になるのには、まだ〳〵餘程の勉强と研究とを要すると思ふ。(完)

「敎授より學生へ」を讀んで

大學院學生　大阪谷公雄

近頃の大學新聞を手にとつて何よりも先づ第一に目を通す所は「敎授より學生へ」の欄である。そしてそれによつて若しかうした言葉を在學中に聞いて居たならばと感ずる事が一再ではない——殊に私の樣に不用意の中に大學時代を送つたものにとつては——。あの短い片言隻句の中に私達が進むべき道を照す光明と貴い敎訓とを見出す事が出來る——それは恰度かひこが糸を吐く如く縷々として絕ゆる事なしに。——金言とは正にかうした言葉を指すのであらう。

○

私は常日頃から次の樣な信念とそれを裏書する幾多の實例とを持つて居る。總て一つの方面に優れた才能を持つてゐる人々は——學者にしろ政治家にしろ軍人、藝術家にしろ時にはそれが藝人と呼ばれる人であつてさへも——常に又鋭い人生觀と非凡な處世觀とを持つて居る人々であるといふ事である。一つの道の權威は又人間としての權威者であるといふ事である。從つてその人達の意見や感想は私達にとつて又一つの貴い心の糧である事を失はない。それを與へられる事によつてどれだけか人間が完成され創造される事であらう。

○

大學が人間を創造する所でなければならないとは人のよく言ふ所である。けれ共現在の制度の下で在學中每日出席したとしても人間的にどれ丈敎養されるかは必ずしも明確でない。然しそれは制度の罪であつて勿論學生の罪ではない。況んや敎授先生方に學生を人間的に陶冶する人間的要素が缺けてゐる證據になんぞならう筈がない。

○

大學敎授は學問的に優れた人々である。そしてそれは同時に鋭い人生觀と非凡な處世觀とを持つた人々である事を意味する——學部の如何を問ふ事なしに——。もし學問上の指導を受ける以外に先生達の人生觀や處生觀を聞く事が出來たらどんなにか大學生活を意義付ける事であらうか。教室外の溜谷に接する事を得ずして——殆んど全部の學生がさうであるが——大學を出るならばその人は寶の山に入りながら寶を得ずして出た人であると言つても、あながちに言ひ過ぎた言だと咎める人ばかりでもあるまいと考へる。

○

この意味でこの欄が設けられた事は大學生活のために喜ばしい事である。けれ共もう一つ慾を言へば「紙面を通して」ではなしに「直接に面して」かうした御言葉を承る事が出來ればといふ事である。各先生方が御都合のよい日に——せめて一ヶ月に一度でも——「學生の爲めの夕」を設けてその晩だけは遠慮なくその先生を訪問して種々な意見や感想を聽かして頂く事が出來ればといふ事である。さうした企が實現せられる共——せられなければ尙更の事——かうした欄の設けられた事は心からの喜を感ずる。此の欄の發展を蔭ながら祈つて止まない。

新刊紹介

社會思想八講　カールデキール著河野密譯　京都帝大裏門前更生閣發行

この譯書はカール・デキールの著はした「無政府主義、社會主義、共產主義」の最初の八章、すなはち理論の部の反譯である。この程度の理論なら少くとも社會問題に無關心なもので無い限り旣に普通一般の常識となつたものとも考へられるが、然したとへある思想の殿堂深く入つたとしても折り〳〵各種の思想をふりかへつて鳥瞰的に把握するのも必ずしも無駄ではあるまい。その爲めには本書は極めて便利である。又近時勞働者や農民の頭が進んで來て「各種の社會思想を解り易く說明したものは?」とか「パンフレットよりもう少し系統的に說明した本は?」と言ふ質問を受ける。著者の思想的傾向に就いては慊らぬ點もあるが、盛り澤山で何でも來いの所本書などをの要求に近いものでは無いだらうかと譯者は言つて居るが、これが一番この書の性質內容をよく現はしてゐると思ふ。譯者は同志社大學に敎鞭をとる篤學の士、譯文は流暢明快、四六判三百六十餘頁(定價一部金二圓二十錢)

◇眞人道(六月號) 金の無い人間は惡人也と信じてゐる日本人へ(井伏太郞)佛敎の業說と遺傳(加治時次郞)お金を有利に利用する方法(井伏太郞)結婚媒介業者の內幕など(一年五十錢・東京神田小川町一眞人道新聞部發行)

休暇中の本紙郵送に就て

七月一日及び八月一日發行の本紙は學友會員諸君の御便宜を計り歸省先へ郵送致したいと思ひます。就ては左記の箇所に六月廿二日から廿六日まで封紙を備付けて置きますから御希望の方は其の封紙に休暇中の自分の宛先を記入し五厘切手を貼りつけて下さい。但し七八兩月とも十一日、廿一日發行の分は休刊致しますから左樣御承知下さい。

◇本學表門衞所
◇同　裏門衞所
◇醫學部表門衞所
◇農學部表門衞所

岡書院新刊書

南方熊楠著　**南方隨筆**　四六判藥嚢地 裝面取天金 著者肖像二　定價參圓五十錢　送料二十七錢

紀州田邊に隱れたる南方熊楠氏が、大英博物館の職を辭し歸朝されてより二十有六年、其間筆を執つてこの國の人類學的民俗學的研究に寄與された論稿より精粹を拔いて我學界に一大金字塔を築かんとするもの即ち本書となす。收むる所九篇の論考、五十篇の俗傳考等、何れも發表每に學界を聳目せしめ刺戟せしめ研究の典據と仰がれきたつたもの斯學に對する南方氏の研究考證の代表的なるものを呈示せり。英國碩學チンキンスの「南方は夫れ異常の人か、東西の科學と文學とに兼通せり」と云へるも宜矣、本書に現はれたる著者の獨自の識見と追隨を許さざる學殖とはその比を泰西に求めて猶得難し。まことに本書の如き學究人にとりては書架に備へて典據とすべき文獻にして、一般讀書人にとりては示唆深き斯學の指針たり。(本書の編纂と校正とは土俗學專攻の中山太郞氏自らその任に當れり。)

柳田國男序　法學士 佐喜眞興英著　**女人政治考**　菊判麻ダック裝面取　定價二圓五十錢　送二十七錢

深き學識と眞摯なる學的態度とを以て、その業績を期待された社會人類學者、佐喜眞法學士の遺稿である。著者は本書に於て、原始古代社會に於ける權力、規範の槪念を檢討して、之が本質の呪術=宗敎的なることを人類學的に論證した。早期社會の權力者、指導者は武人たる前に先づ呪術師であり巫者であつた。著者は更に一方に於て古今の母權制母系制に對する犀利な考察、又他方、古代日本及古代琉球に於ける巫女に關する豐富な資料に依つて、遂に原始古代社會の呪術=宗敎的なる權力、規範の體持者は女性なりと云ふ前人未唱の結論に達したのである。社會人類學的考究の機運に先驅する獨創的文獻として大方の淸鑑を仰ぐ。

內藤虎次郞序　新村出序　廣島高師敎授 武藤長平著　**西南文運史論**　菊判カンバス裝面取挿畫二十八葉　定價五圓五十錢　送料二十七錢

崎陽に紅毛黑船の煙絕え、麗城に琉球來貢使の姿失せ、筑豐肥薩の藩校の門閉されし以來、大陸文物東漸の門戶に當つたわが西南地方の、文運比類なく旺んなりし過去の態姿は吾等が視野より沒し去つた。

此時に當つて九州に滯る十有七年の著者が、長崎と琉球とへは屢々探訪を試み南は八重山群嶋を極め西五嶋に遊び北平戶に訪書し南豐の文獻を探査しつぶさに辛勞して、江戶時代に於ける洋學勃興の跡を追ひ漢學振興の道を尋ね碩學鴻儒の學風詞流を求めた業績は、ひろくわが文化史への貢獻として夙に注目されてゐたのである。この著者の半生を捧げて鎖西南嶋の文敎研鑽の成果を蒐めたるもの即ち本書となす。

本書一卷、そは海外の文化を攝取し在來の學問を培養し花の如く咲き亂れたる西南地方文運隆興のあとを隈なく照らす巨燈である。この新しき光を浴びて晦冥に瀕した鎖西南嶋の先師舊人の學問に寄與した功績はその遺したる文獻と共に再び燦然として吾等が眼前に展開するを覺ゆる。まことに本書は近世に於ける我が西南地方の文化史的意義を究め文化史上の位地を定むるものとして長く學界の至寶たることを信じ敢へて諸彥の机上にすゝむ。

東京麴町區上六番町五　振替東京六七六一九番　電話四谷四三四九番　岡書院

內藤博士還曆祝賀　**支那學論叢**　四六倍版一一〇〇頁 挿畫十七葉 總クロス函入　定價八圓五拾錢　送料四拾五錢

目次
北堂書鈔の舜典孔傳……石濱學士
五嶽眞形圖に就いて……井上敎授
景敎經典序聽迷詩所經……羽田博士
經學史上に於ける穀梁家の地位……本田敎授
北支那先秦蕃族考……小川博士
遼陽嘛碑文の解說……鴛淵學士
山井鼎と七經孟子考文補遺……狩野博士
儒學史料として見たる兩戴記……武內敎授
蒲印姓氏徵序……羅振玉氏
隋唐時代に支那に來住した西域人……桑原博士
樂府の研究……倉石敎授
朝鮮の幢に就いて……松本學士
爲支と郗連……藤田敎授
黑龍江省呼蘭平野の開發……有高敎授
應永外寇の眞相……三浦博士
東洋天文學史大綱……新城博士
五代宋初に於ける安南の土豪吳氏……杉本學士
高麗時代の文籍……稻葉君山
法隆寺の建築樣式と支那六朝の建築樣式……濱田博士
支那歷史記述源考……丹羽學士
Le Kong-heou et le qobuz……Paul Pelliot
南朝に於ける士庶區別に就ての小研究……岡崎敎授
西遼都城虎思斡兒朵考……王國維氏
道統傳……高瀨博士
支那人が塞外人を胡人と總稱する緣由に關する疑……那波敎授
前方後圓墳に關する一考察……梅原學士
國史研究に於ける支那知識の必要……黑板博士
白蓮敎の亂に就いて……矢野博士
校漢紀書後……傅增湘氏
崑曲より皮黃調への推移……靑木敎授
ライプニッツの「支那の最近事」……坂口博士
條支國考……白鳥博士
燉煌本文心彫龍校勘記……鈴木博士

文學博士 內藤湖南著　**日本文化史研究**　定價參圓　送料廿七錢
文學博士 矢野仁一著　**現代支那研究**　定價參圓　送料廿七錢
同著　**近代支那論**　定價參圓　送料廿七錢
同著　**近代蒙古史研究**　定價四圓五拾錢　送料廿七錢
文學博士 鈴木虎雄著　**支那詩論史**　定價貳圓八拾錢　送料廿七錢
同著　**支那文學研究**　定價六圓五拾錢　送料卅六錢
支那學社編　**支那學合本**(第一卷 第二卷 第三卷)　定價各五圓　送料各卅六錢

近刊豫告
文學博士 內藤湖南著　支那上古史
同著　支那史學史
文學博士 狩野直喜著　兩漢學術攷
文學博士 矢野仁一著　支那近世史
同著　支那近世外交史
文學博士 羽田亨著　西域史
小島祐馬著　古代支那社會思想史
湯淺廉孫著　訓詁學史
本田成之著　支那經學史論
靑木正兒著　支那文藝思想史
神田喜一郞著　支那金石學史

早大敎授 北澤新次郞著　**アプトン・シンクレア**　四六版二三〇頁 總クロス函入　定價壹圓八拾錢　送料拾八錢

名著「石炭王」「ジャングル」等に依り社會主義小說家としてのシンクレアの名は一世に喧傳せられた。併し他面彼は極めて卓越せる文明批評家であり、殊に米國資本主義の批判に至つては傾聽に値するものが甚だ多い。本書は即ちその敎育、宗敎、新聞、產業に對する諸見解を項別に紹介し且論評したるもの。帝國主義的資本主義社會の內情を知らんとする諸彥にお奬めする。

京大助敎授 石田憲次著　**カーライル研究**　定價貳圓五拾錢　送料拾八錢

東大敎授 戶田貞三著　**家族の研究**　四六版四〇〇頁 總クロス函入　定價貳圓五拾錢　送料拾八錢

從來家族に關する研究は團體としての家族の研究よりも社會の制度としての研究に(即ち大なる社會をなす人々の生活を家族なる團體に關係する方面に局限しての觀察に)重きが置かれてゐた。併し家族の性質は更に之を團體として觀ることに依り始めて明白に理解し得られる。本書は右の見地に依る著者研究の成果にして社會學上有數の文獻である。

法學博士 河田嗣郞著　**家族制度研究**　定價參圓貳拾錢　送料廿七錢

發兌　京都市丸太町寺町東 振替大阪一七〇五　東京神田區淡路町二 振替東京五三九〇九　弘文堂書房

河上肇著　第七十二冊　**社會問題研究**　六月廿日發行　資本論略解 貨幣取扱資本 商人資本に關する史料　價每冊分壹圓廿五錢 稅共廿貳錢六　弘文堂

神戶正雄著　第四十八冊　**時事經濟問題**　七月一日發行　改正工場法と綿業の影響 船舶金融 不在地主と自作農　價二十五錢 郵送料貳錢　弘文堂

三省堂編輯所編纂
ジェム英和辭典
SANSEIDO'S GEM DICTIONARY
定價 ¥1.30　書留送料 ¥0.14
ジェム英和和英辭典の分册(英和)出づ

ジェムの輝き　皆樣の喜び

三省堂のジェム英和和英辭典は形の小さいことで世を驚かし、內容の整つてゐることで人に賞められ、珠玉も欺くやうな裝幀で皆樣に愛されてゐます。今度別にその分册を發賣して、特に英和の部だけを要せらるゝ方々の御希望に添ふことゝ致しました。合册・分册どちらでも御選擇の自由が利きます。ポケットに、電車の中に、敎室に、事務室に、この一二ギリの實用辭書を活用して下さい。英語の學習者にも實際家の活用にもポケットにジェムは必要であります。

株式會社 三省堂　東京大手町　振替三一五五五

カール・デキール著　河野密譯　**社會思想八講**　四六判クロース裝　定價二圓二十錢　送料十五錢　著者が八年間に亘つて伯林大學に於て講ぜる講義集とも言ひ得べく、über Socialismus, Kommunismus und Anarchismus の明快なる翻譯である

波多野鼎著　**社會思想史**　菊判麻布裝　定價四圓三十錢　送料十八錢　近世社會主義思想史である。十九世紀の研究より空想的社會主義より起してマルクスに筆を措いて居る。流暢なる筆は著者あらしめて一層光輝を

一、圖書出版　一、新刊雜誌　一、京大參考書一般　一、古書賣買　一、古原書賣買
京都帝國大學裏門正面　更生閣書店

昔草鞋と鰹節を提げて 洋行された比企教授
廿八年勤めた本學を去らる 還暦賀宴は新秋九月

本學工學部教授工學博士比企忠先生は本年を以て還暦に達し本學を去られる事になつた、地質學鑛床學殊に鑛物學が先生の專門である梅雨の一日先生を中長者町のお宅に伺へば折から御病氣臥床中であつたが快く迎へられ、床に起きなほられて元氣よくお話して下さつた

「この二年程はすつかり健康を害して全く目茶目茶だ、諸君にも甚だ相すまなかつた、近來は年始狀を出すのに皆自分よりも若い人許りになつて了つた、學生からどこそこの鑛山へ行きたいから鑛山長に紹介狀を書いて異れと頼まれてもうそんな鑛山長はとつくに隱退したか死んで了つて居るぢやないか、自分も年をとつたものだと云ふ感を深くした、東大を出たのが明治二十七年そこで三年間講師をしてそれから京都へ來て以來今日まで二十八年六ヶ月間とう／＼大學の外へは一步も出ずじまひだつた、明治三十一年一月に倉內君(現採冶助教授)が生れ同年二月十四日に私が京都理工科大學の助教授になつたと云ふわけだからね、隨分古いものだ、三十一年に阿部君と齋藤君と私とで採冶教室を開いた

二年程して「創業に際し」云々で齋藤君と一緒に五十圓御褒美をもらつた、當時の大學の經費は僅か五萬圓だつた(今は四百五萬圓)、今の採冶の教室はもと三高の教室であつた、その後四度つぎ足して今の樣なみつともないビルディングとなつたのである」

その他今の化學教室の前の溝の邊に寄宿舍があつたこと第一期の卒業生の話だこと黃色くなつた厚さ一分許りの第一回大學一覽をくりながら古い話はなか／＼盡きない

次いで洋行のときのお話

「私は草鞋と鰹節とを持つて洋行した、獨逸へ行つた時にベルリンの大學の地質學教室へ兩方とも寄附しておいた、そのときに草鞋を實地にはいてみせてやつたらこれは珍しいとプロフエッサーが大に喜んで感謝狀などをよこした、アメリカへ行つた時ヤンキーのプロフエッサー連と一緒に登山した、ところが奴等コンパスが大きいので迚も早くあるく、あゝベルリンに殘した草鞋さへあつたならばと後悔したよ」

先生の逸話を集めると本が一册出來る位だ、話は盡きぬが御病氣にさはつてはいけぬとお暇をつける今や先生は功成り名遂げてこれから靜かに餘生を送られるのであるがいたましくも長らく御病床にあり、たゞ三十年間に各地を行脚してものせられた紀行を讀み等してそゞろ元氣な時代を思ひなつかしみ自ら慰めて居られる、先生の多年の功績に對し還暦祝賀の意を表する爲門弟友人一同が記念資金を募集中である、又本年九月二十四日には京都に於て水曜會大會を開き先生の還暦祝賀の宴を催すとになつて居る、永く記念として教室に殘す先生の油繪の肖像は目下建築科講師太田喜二郎氏に御依賴作成中である

夏季 滿鮮見學旅行
國防研究會の主催で
釜山―奉天―大連―北京

國防研究會が主催になつて夏季休暇を利用し滿鮮見學旅行を企てることになつた。これに就いて長谷部大佐を訪ねれば次の如く語られた。

滿鮮は日本の海外發展の第一步の地であり從つて政治、經濟、軍事等に於て第一線に立つてゐる我同胞の活動狀態。北部に於ける日露支の勢力關係を如實に見る等裨益する點は少くない。或は滿鐵の力による工業發展の有樣、例へばカットグラスの製造、オイル、シェール工業、大連に於ける豆糟製造等、此の方面の見物も決して少くあるまい。醫學部の學生には、滿鐵病院も一見の價値はあらう。

更に天津、北京は東洋に於ける最も外交關係の複雜な處、特に天津は一方各國の東洋唯一の接觸地であり、他方支那大官連の居住の地であり、私の厚知も多いから種々便宜を得る機會もあらう。

兎に角內地を出て始めて內地の姿を見るとが出來るので、歌に唄はれた赤い夕日に照された滿洲平原の大自然は、我等の感慨を深からしめるものがあるであらう。

尙豫備智識として滿鐵の事業調査を取寄せ中であるが、間に合ふか否かは不明である。私も何か案內書とも云ふべきものを書いて見たいと思ふ。

豫定人員は五十名許りであるが既に百名に達してゐる。五六十名が最も適當と思ふが、人員の制限はしない。多く兵舍に宿泊する豫定である。

兎に角日本の背景は如何なるものか、將來此の方面に企業せんとしたら如何なる方面か、又發展の價値ありや、それらを知悉すると共に、支那に於ける政爭の實相を見る等、效果は決して少いものではあるまい。

旅行日程の豫定を簡略に示せば次の如くである。第一班第二班共八月十日午後十一時下關發。十一日午前七時釜山着。京城、平壤に各二泊し新義州を經て十六日奉天に入る。奉天に四泊。廿日夜は遼陽に泊つて廿一日は旅順に着く。旅順、大連の見學を終へて廿四日第一班、第二班は分れ前者は廿五日の船にて歸航。後者は廿五日天津に入り三泊の後北京に二日を費して卅一日大連に歸り九月一日歸國の途に就く。尙歸路は大連發の汽船の都合によつて出發日取等幾分變更せらるゝかも知れない。それらは總て十五日に參加者と相談して決定する積である。現在では大部分二班に參加され一班は五六名に過ぎない。

學術を經とし趣味を緯とした
本學記念講演會

本學創立記念講演會は去る十八日午後三時より法經第一教室に於て催された。聽衆四百、學外一般の聽講者多く紅數十點を交へ壇上には琴を始め各種の樂器を陳べて、先づ異彩を放つ。荒木總長開會の辭を述べ講演は醫學部教授正路倫之助氏の『和洋音樂の音階の話』より始まつた。音樂は國民の情調を和げ、その品性を高尙にする上に必須不可缺なる使命を有し、和洋音樂は夫々特異の性質を持つが故に兩者の差別を知る事は、之を理解し之を享樂するに必要なる所以を斷じ、次いで人が音の長短強弱、高低並びに音色を感ずるは物理學、生理學上、如何なる理由に基くか、又、音樂の要素たる和聲、旋律及び拍子において、和樂が有する特色を、諸種の樂器を用ひて詳述され、話は、愈、音階に入る。『人は音の高さに於て振動數の對數を感ずる』と言ふフエヒネルの定理を引いて、オクターヴの分ち方を說明し和樂は四度、五度の和聲をのみ用ひ、洋樂は長三度、短三度をも使ふ點、自然音階と平均率音階との關係及び洋樂と支那並に日本樂との音階に於ける差別等に關する氏の說は、如何にその蘊蓄の深きかを窺はしめた。或は琴を彈じ蓄音器を奏し、微に入り細をきはめたる長講演が終つたのは五時。十分間休憩の後、電燈を點じて工學部教授藤井厚二氏の『和洋風住宅の話』が始まる。氏は先づ特種固有の氣候に順應して發達したる和風住宅と洋風住宅との構造上の特長を論じ『我國民は公的生活に於ては洋風、私的生活に於ては多く和風の樣式を採つて居り、私的生活に於ても洋風卽ち腰掛け生活を營むは、人情、風俗、習慣等より考へて決して近い將來ではあるまい』とて皮肉な實例を擧げ、次いで精緻なるグラフに依つて、溫度、濕度、雨量等の住宅建築に及ぼす影響の如何に甚大なるかを指摘し、『住宅の改良は、かくの如き季候の影響を考慮し各地方の人情、風俗、習慣を斟酌せざれば、その全きを期しがたい』と結ばれた。かくて荒木總長の閉會の辭あり、學術を經とし趣味を緯とするこの意義ある講演會は終りを告げた。時正に六時半。

痛烈骨を刻む 現代教育の批判
教育の階級鬪爭性を說く 森戶辰男氏の熱辯

熱烈なる眞理の探求者として將又思想界の鬪將として常に青年學徒の欽仰の的となつてゐる森戶氏は講演部の招聘に應じて去る十一日法經第一教室に於て『鬪爭手段としての現代教育』と題し得意の熱辯を揮ひ滿堂の聽衆に多大の感銘を與へた。氏は開口一番巧妙なる比喩を以て社會現象と社會科學との關係を自然界に於ける氣象と氣象臺との關係に比し、人間の歷史は階級鬪爭の歷史なりとの社會科學の結論を不可として其研究を禁止するは恰も風雨强かるべしとの信號に驚愕し氣象臺そのものゝ閉鎖を命ずると同樣であると述べ、其昔社會主義を論じた氣銳の士岡田文相の今度の內訓はその立場がさせるものであると論じ、一段の熱を加へて現代教育に對する深刻なる批判に入つた。

現代の教育は支配階級が被支配階級に對するものである。二十五萬の先生と四億の金と一千萬の生徒とを擁し形式的に完備せる一大思想生產市場たる吾國教育界に於ては果して何が生產されつゝあるか、教育に於ける三つの

根本 問題に就て考へて見度い、第一に教育は次の時代の爲めのものでなければならぬのに對し現代我國教育の根本動機をなしてゐるのは封建的な階級主義である、世界が對立的道德より水平的道德へ進まんとしてゐるに際し日本だけは特殊國主義を保持せんとして物質主義を排し精神主義を謳歌し理論的には認める事の出來ぬ過去への教育が行はれつゝあるのである。

第二に教育は社會的使命として全體の爲めの教育でなければならぬのに對して小學校を卒業した九百萬の兒童の中僅四十萬が中等教育を享受し得更に大學教育を受くる者は三萬人に過ぎない。而も彼等は搾取者の道德を敎へこまれ特權階級

擁護 の教育を受けてゐる。

第三に教育は眞理への教育でなければならぬのに對し茲にも多くの誤れる思想が注入されてゐる。自然科學の世界に認められる事實も社會科學の領野には採用されず蒔かぬ種は生へぬと云ひ稼ぐに追ひ付く貧乏なしと唱へて弱者を壓迫してゐる。換言すれば將來の爲め全體の爲め眞理の爲めと云ふ教育の根本思想は現代に於て悉く其逆を行つてゐる。茲に現代教育の二重性が存在してゐるのである。教育の改造は抽象的な人心改造論では不可能である。社會生活を離れて教育は存在し得ない。現代日本に於ては教育が社會の方針を定めるのでなく社會が教育の方針を定めてゐるのである。

現代教育の二重性は封建ブル聯合階級と無產階級の對立により成立してゐる現代教育の二重性、階級鬪爭性は社會關係の

改造 行はれざる限り失はれ得ない。從つて階級鬪爭の手段として顯れてゐる教育は階級鬪爭によつてのみ克伏し得る。世界は進步する、維新の際西歐文物が翕然として資本主義と共に入つて來た時支配階級たる封建武士はその牙城を死守して之を拒けんとした。此事は接近しつゝある新しき世界に對し盲目を强ひ天の彼方に現れたる暴風の兆に對して依然として南風晴との信號を揭げてゐる現時吾國の要路者は何を語るであらうか。諸氏反省を促す次第である。

一時間半の熱辯の後末川部長の挨拶あり拍手裡に散會。

大學教育に於ける演習の地位(上)
經濟學部學生　高松茂男

此一文は財政學演習の演習開きに於て爲した口頭報告の要領であります。偶々新聞部より「教授から學生への希望」を諸教官に求め來るに及び私の參加してゐる財政學演習の擔任教官が自分の希望に代へて私の報告を御認め下さいました。乃ち茲に拙文をものした所以であります。

第一　我が大學生活と演習制度

帝國大學令第一條に「帝國大學は國家の須要に應ずる學術技藝を教授し及其蘊奧を攻究するを目的とす」とある。學術技藝の研究は高商、高工等の專門學校も亦之を目的とし獨り大學の特色とする事は出來ぬ。今更云爲するまでもなく大學教育の特色は進んで學術技藝の蘊奧を究むるにある。帝國大學令第二條に「帝國大學は大學院及分科大學を以て構成す。大學院は學術技藝の蘊奧を攻究し、分科大學は學術技藝の論理及應用を教授する所たり」とある。之で見ると學術技藝の蘊奧を究めるものは、大學院學生で分科大學生では無いやうである。之を實際に見ても、僅三四年の在學では學術の奧を究めるに足らない。然らば分科大學生は、單に專門の學術技藝を學修するに止り學術技藝の蘊奧を究むるには沒交涉たる可きであらうか。否、分科大學生は、其在學期に於て學術の蘊奧を究める素地を作らなくてはならない。深遠な學術を究め得る能力を養はなくてはならない。我々學生は常に此研究の空氣の中にあつて、研究の態度に出るのを忘れてはならない。專門の學術技藝を學修し、兼ねて研究的精神を養ひ、あらゆる問題に遭遇するも之を解決し得る應用力を作らなくてはならない。

之を經濟學に就て見るに、經濟學は年と共に推移する。之を三年間に講義しうる事は困難である。大學の講義は大體理論の骨子に止り、枝葉の議論、個々の場合に於ける應用の如きは、各自の研究に依る可きである。而て如何に學術的に研究す可きものであるかと云ふ事に就ては、十分に會得する所が無くてはならない。例ば或特定の問題を研究しやうとするのに、之に關する參考書を如何に發見し如何に讀み、如何に批評し、然る後に自己の意見を立て、如何に問題を解決す可きかを會得しなくてはならない。その「如何に」の問を發するもの、及その之に答ふるものが卽研究的精神であり、研究的態度である。

大學に於ける教育は我々學生に於て、之を受動的研究と自動的研究とに分つ事を得る。受動的研究とは講義を聽く事である。教授の講義する所は片言隻語もノートする。ノートの虫となる事である。而も說き及ばされない所に就ては、更に進んで穿鑿しないと云ふが如き、ノート主義を指すのである。現在我々は餘りに此のノート萬能主義に依り過ぎはしないであらうか。其結果試驗にパスすれば以て足れりとなすの風が認められる。其甚しきに至つては、法學部、經濟學部に於て、學期の大部、講義に出席せず、唯試驗場に於て始めて教授の謦咳に接するを得た學生があつたり、試驗當日校門を潛り、そこに思掛けなく巍々たる時計臺の聳ゆるをみて、おやとばかり足を止めた學生があつたりするのである。如何に勤勉に第一日より講義に出席し、テキストブックを讀み、如何に立派な成績を以てノートの知識を抱いて校門を出ても、斯の如き人々は最も重大なものを缺いてをると謂はねばならぬ。卽自動的研究心、自動研究的態度の缺如である。此研究心が重要なのである。此研究的態度に依て、與へられた問題を解決するのが必要なのである。

大學に於ては、此自動的研究心養成の目的を以て、卒業論文制を設け、或は演習科を設ける。然るに法學部、經濟學部の現在に於ては、高等文官試驗制を考慮した爲め卒業論文制を採つてをらぬ。こゝに於て演習は益々重大なる意義を帶びて來る。

演習は科學的な自動的の研究心の養成を目的とする。知識の實際的應用は其目的とする所で無い。演習は學生本位である。研究報告は手であり論者である。學生が話其義務である。他の學生は之に對し批評を加へ議論を爲さなくてはならない。出席を前提とする事は今更謂ふまでも無い。

斯くして短い在學に於て、我々自ら進んで爲した研究の結果が甚小であつても、研究的精神をさへ養つて居れば、卒業後も時に隨て研究を遂げる事を得、此研究的精神のある所、卒業後も常に學問の進步に伴ふ事を得るのみならず、進んでは學問の進步に貢獻する事を得る。「日本の學生は在學中よく勉强するが、卒業後は勉强しない、獨乙の學生は在學中遊ぶけれども卒業後より勉强する」と謂はれてをるのも日本學生の勉强法が受動的であつて卒業後に研究する方法を知らないのに起因するのではないだらうか。獨墺に於ては、大學獨り學者を占有してをらない。あらゆる方面に學者を有してをる。是實に此演習制度の自動的研究精神の發露する所であつて、其文運の盛なる所以である。

次に又演習の社交的效果を忽視する事を得ない。現在法經に於ては、其學生の數餘りに多き爲め教室內に於ては學生互に其席を連ねるも、一度室外に出づる時は恰も路傍の人の如き觀がある。師弟の關係に至つても、其間淡々として特別の機會の無い限り、情誼に浴する事を得ない。此時に當り、演習に依て教授と學生、學生と學生の接近をはかり、其和合を期し得られ、師弟間の情誼を掬すを得る事は、我々の大に喜とする所でなければならぬ。(未完)

京機學會臨時大會

既報の如く去る十三日舊本館樓上に於て、朝永博士還曆祝賀式が擧行された。博士は明治卅一年十月より本年三月末まで約三十年間本學に教鞭を取られ、學生を見る事恰も我子の如く七百の子弟はいづれも博士の鴻恩と高德とを慕ふて止まぬのであつた。式は伊藤敬三郎氏の式辭について記念品贈呈、博士の御挨拶があり、記念撮影があつて終了した。それから第一共同講義室で講演會が催された。先づ高野瀨宗吉氏は『國際勞働會議の感想』と云ふ題下に、一八三八年にロンドンに於ける無產者總同盟の成立より說き起し、政治は勞働者の經濟的解放に對してその手段とならねばならぬことを說き、巴里に於ける第一インターナショナルの生起より第一第二の失に及ぼし、各の主義、政策から比較批判し現在東洋が其唯一の爭奪戰となり第二、第三インターナショナルが烈しい戰ひを戰つてゐるが何れも勞働條件の改善を目的とするとを述べ、會議に於けるマルテン代表の『勞働者の希望を實現することを知らねば、歸りて爲すべき事を知る。』ワルテジ代表の『かくの如き穩和なる手段を拒むならば、吾々は暴力に依るより他ない。』等の言葉は、彼等の立場を雄辯に物語つてゐると續けた。日本勞働總同盟の前身は、大正元年ユニテリアン牧師鈴木氏の礎和會に始まり勞資協調主義を採つたものであり大正八年の大會によると『凡ての革命、暴動及び過激主義を否定する』と定められてゐたが、九年十月の大會で大波瀾を起し、この時を一轉期として、融和會はマルキシズムで一貫するとになつた、併し大正十三年鈴木文治代表歸國の後、再び方向轉換を行つた。卽ち十四年五月の大會以來關東側はマルキシズムを破棄し、日本勞働總同盟は第二インターナショナル主義で進むとなつたのである。けれども一方第三インターナショナルの東洋に於ける宣傳も猛烈であり其勢力は最も强く働いてゐると述べ、最後に私は此の會議には多くの期待は有つてゐない。然し國際勞働會議が我國組合運動に對して重大なる關係を有することは否定出來ぬと結ばれた。

次に竹尾秋助氏の『ポンプの實用方面に就て』、菊川教授の『汽罐の通氣裝置に就て』、菅原教授の『製造工場に於けるバラック・プレッシュアー・タービンの利用に就て』及び門司鐵道局の住山六郎氏の『機關車給水加熱裝置に就て』等の有益な講演があつた最後に朝永博士は「PREEXHAUST LINE OF THE INDICATOR DIAGRAM OF A TWO STROKE CYCLE INTERNAL COMBUSTION ENGINE」と題する講演あり六時終了。直に新館樓上の晚餐會に臨み歡を盡して九時閉會

水の分析(工業化學教室)
正井治

水道の水や井戸水や鴨川の水ぢや張合が無いと云つてKは風呂屋へ行つて女湯の午後十一時半の湯をもらつて來て硫酸と硝酸とを檢出し「女湯は酸性なり」と證明した「蓋しまだ出るものがある筈だ」と尙も頑張てゐる

投書欄
◇投稿者は本學關係者に限る◇氏名は必ず明記すること◇一回百行以內のこと

此三つのもの
經濟學部　田口英太郎

一、扉ひらく

たゝけよ然らば開かれん、求めよ然らば與へられんと云ふが久しく嚴として閉され大學の主人公たる學生入る可からず、世の珍客のみ傲然と自動車で乘り着ける所たりし大學表玄關が開放せられた。自分は朝登校してあの明かずの扉を見る度に不快な念に驅られた。玄關は家の入口だと心得た自分には甚だ不思議な存在物であつたと同時に自ら「墻壁」を築くこと萬里の長城以上なる官僚主義が不快であつた、が二三日前此明かずの扉の開かれたのを見附けて込上げて來る微苦笑を禁じ得なかつた。自分は田舍者が都會見物に來た時のやうに珍らしさうに怪物扉を見廻しながら有名な唯物史觀を思ひ出しつゝ勿體振つた足取りで入つて行つた。これも社會關係にエントシュプレッヘンしたものであらう。今やあらゆる方面に於て方向轉換が高調せらるゝ、社會は進む制度は不變、此處に改革が必要とされる。社會の波はヒシ／＼と此大學にも押寄せて來る。今や大學も新しき方向轉換の時期に直面して居ないだらうか？

二、貧弱極まる圖書館

僕が大學に入つて驚いたものゝ一は此ドエライ圖書館の存在である。內容外觀共に一高等學校專門學校にも劣りはせぬだらうか、僕の關する經濟に就て見るにその貧弱さつたらない。新刊書なんか曉天の星、殆ど學生唯一の研究設備が此有樣、或は云ふあれは殆ど法經の圖書館であると。よし法經のものとしても貧弱さに變りはない、法經の本なんか個人の藏書だつてあんなもんぢやない。尤も研究館の方には澤山あるさうだが、そは學生が自由に利用出來ないから駄目だ。又其建物に就て云ふも何時もセセッコマシイ。試驗時分なんかタッタ百三十人位しか入れない、なんか遙々出掛けて行つて滿員ですご／＼引下るとが屢々である。何んとこれでも帝大の圖書館であらうか？僕は或旅行團に會つて所謂圖書館を敎へてやつたら附添の先生が此がですかと其偉大さに感嘆久しうしたものだつた。僕は圖書館の大擴張を切望して已まぬ。

三、學部雜誌の發刊

凡そ中等學校以上の學校で校友會雜誌を持たぬ所があらうか、皆立派な雜誌を年幾回も發行して居る。我大學には然し之れが無い、それを誰も不思議とも思はず無關心で居る、全く以て驚嘆だ。大學には雜誌部なるものが無い、尤も昔は雜誌があつたさうだが詰らぬもので新聞が發行されて消滅したのだと聞く。僕は今昔の失れを復活させやうと云ふのではない。各學部獨自に發行せよと云ふのである。例へば同好會誌とか有信會雜誌とか、そして教授學生の研究隨筆を滿載するのである。文學部なぞは「山門」其他を各專門により發行して居るから或は別に論ぜられやう。東大には經濟に確か「經友」あり法科にもあると思ふ。僕は餘り大學がガラ／＼して纒りの無いのに驚く。蟲酸の走る樣な出身校意識、まるで仇敵かなぞのやうにグループを作つて睨み合ふ。隣に坐しても話もせぬ名も知らぬ。若し雜誌が發行されれば各部スピリットが現れ學生融和に力あることと信ず。今度の學友會改善は結構で贊成であるがかう言ふ事をも考へてもらひたいと思ふ。僕は切に學生諸君に訴ふる次第である。

學友會改善 促進運動
實行の緒につく

先にその成立と經過とを報道した學友會改善促進運動はいよ／＼學友會員千名以上の贊成署名と代議員小川、槇月、等々力、三須、早川五氏の贊成を得、委員の手に成る改善具體案を學友會に提出し、荒木會長に對し學友會規約の廿六條により役員會の召集を要求するに到つた。近く役員會の開催を見るであらう。尙その改善する所は既報の如く左の三點にある。

◇代議員會の確立代議員數の增加
◇學生代表としての總務の公選
◇共濟部・學藝部新設

樂友會委員
十日改選就任

本學々生集會所の東洋風の入口と鮮かな赤屋根とのために人目を惹かずにおかない樂友會館は、我が京都帝國大學創立廿五週年記念事業として、森田教授の設計監督の下に三十萬圓の豫定工事を以て大正十三年二月に起工し、翌年五月に竣工されたものである。そしてこれが維持費の出資者は本學卒業生及び關係者であつて現に約四千あり打つて一丸として樂友會なるものを組織し當館を本部として相互の親睦を計りつゝあるが、ゆく／＼は卒業生全部を洩れなく網羅して京都學士會とでも言ふやうなものに仕上げやうとの意嚮であるとは既報の通りである。從來各學部の先生と卒業生各二名宛の委員を擧げてゐたが去る十日の委員會で左の通り改選された。

▼法、山田正三、森口繁治、增山忠次、加藤健一▼醫、市川清、前田鼎、古屋貫藏、淺山忠愛▼工、濱部源次郎、瀧山與、永田兵三郎、山岡景範▼文、西田直二郎、澤村專太郎、羽溪了諦、鈴鹿三七▲理、小松茂(庶務主任)、園正造、河田嗣郎(會計主任)、奧山寧作、小嶋本太郎、岡本一郎、樋口松太郎▼農、大杉繁、黑正巖

尙、使用人に對する心付けは支拂總額の五分を請求書に明記するやうに七月一日から改正實施するとが議決された。樂友會館の設備は講演室及び小談話室、麗室、食堂、球戲室、浴室とあるが、大正十四年六月より本年三月までの使用統計を見ると、宴會四千七百二十九人、食事八千六百二十八人、茶菓三千八百四十九人、宿泊五百五十九人である。

京大建築會例會

十六日樂友會館で開催。別所醫學士は平素指導する『精神衞生』につき『健全な精神は健全な身體に宿る。』と云ふ衞生上の標語に疑念を挾む事から說き起し自己の臨牀經驗に幾多の實例を擧げて『健全なる精神は健全なる身體を造る』と結び次いで米硝子會社の硝子製造實况の活動寫眞を見て九時半散會

改善運動の疑點に答ふ(下)
法學部學生　奧村仁郎

(八)執行機關

我々の具體案の如く總務を學生一般より選出せしむるときは、何等の知識經驗なきものが各部事業の連絡統一を圖ることゝなり、事實上之を爲すは不可能ではないかとの說がある。一應尤な說である。然し乍ら各部事業の連絡統一を圖るには常任委員(現在の總務委員)があつて總務を補佐するのであるから、總務は多少の經驗はあれば、微弱な點まで知らなくとも差支へあるまいと思ふ。却つて私は總務なるものに學生代表なる意義を重點として考ふるのである。且各部事業の實際に携はりつゝあるものが、其連絡機關となれば、寧ろ好ましくない結果こそ惹起しはすまいか。決して正當なるものとは信じない。學生代表なるが故に學生全般より選出するは蓋し當然の理ではあるまいか。

又常任委員は代議員會の承諾を經ることを要するとなすは、常任委員の行動を束縛する上にのみ意義ありとの說もあるも然らず、常任委員は常任委員會の構成員として各部の代表者たると共に、一方に於ては總務を補佐する任務がある爲め、此點に於て全般的意義を有せしむる必要がある。故に代議員會の承諾を經ることを要すと爲したのである。

且代議員會と常任委員會との關係に於て著しく代議員會が常任委員會を壓迫するが如き感を抱かるるものなきにあらざれども、之亦誤解である。現在より此關係は彈力的にこそなれ、決して固定的に壓迫的の一般的施設一般的事業を新設して一般學生の生活に事を爲さんとせば、現在より一層敏活に事は處理され行くであらうと思はれるが如き其一例である。

共に此度の改善は執行機關の權限の擴張と確立ではあるが、決してその縮小を意味するものではない。

(二)其他の事ども

學生大會は學友會の事業にあらず、又機關でもないとの說がある。此點學友會の眞の目的を解せざる所に發する。私は學友會の目的を學生全般の心身の修養、福利增進並に團體的訓練の達成にありと解するが故に、當然に學生大會を得るが學友會に臨時機關として屬せしむべきものであると信ずる。次に事業を普遍化することは趣旨として頗る結構であるが、其財源を何處に求むべきやとの說がある。この說は、現在の學友會諸事業の費用が最も理想的に分割せられて居るとの前提の上に立つてのみ言ひ得る。各部豫算の分割及費消が完全に行はれてゐるとは、遺憾乍ら言ふを得ない。必ず或程度の冗費の節約を爲せばそれのみにて若干新事業の開設を爲し得ると信ずる。且入學者遞增の結果、累進的に會費納入額も增加する譯であるから順次に新事業を開設し得ること多言を要すまい。

最後に言ふ。代議員會も選擧方法の改正により從來の如き一部の代表でなく、學生全般の代表となるに至れば、彼等は何等の掣肘を受くることなく自發的に學生全般の意嚮を汲み、之が要求に副ふやう事業普遍化の實績を自ら擧げるであらう。先づ改善の步を進むべきは制度の改善(制度そのものの改善、及制度運用の改善)であり、之より焦眉の急を要するものはあるまいと信ずる。

旬報 (廿一日より卅一日まで)

◇國文學會第一回研究會　所　學生集會所　時　廿一日午後七時
◇印度學會例會　所　學生集會所　時　廿四日午後七時
◇讀史會六月例會　所　樂友會館　時　廿四日午後七時
◇賀茂鏡池例會　所　岡崎本願寺別院　時　廿五日(金)夕七時半(手嶋氏、出口氏、會費二十錢)
◇水上競技大會　所　本學プール　時　廿七日午前九時
◇旅行部夏季登山準備打合會　所　學生集會所　時　二十八日(月)午後三時

白靴 (均一特提)
CBA 五圓五十錢 六圓五十錢 七圓
均一品ノ外舶來白麻防水リンネル製各種
京都寺町竹屋町上ル　岡本靴店　電話上二七〇八番

京都市內優良藥舖商

藥種問屋 化學藥品類 獨乙メルク社製 獨乙グリユブレル社製 顯微鏡色素類 其他
京都市二條通烏丸東　中村藥店　店主藥劑師中村

醫療用藥品 化學用藥品 製造、直輸出入
京都市二條通烏丸西　半井萬商店

醫化學藥品問屋 酸素、炭酸 各種壓縮瓦斯 元賣所
京都市二條通寺町東　近藤延壽藥局

各種藥品材料
京都市二條烏丸西　掛見繁松商店　電話上一二七〇

三共株式會社製品取扱所 一般新藥類 化學用藥品類
京都市烏丸通二條上ル　三共組

化學藥品及附屬品
京都市祇園富永町一〇八　ヨシノヤ化學藥品部

藥品一般
京都市寺町今出川　福知藥局

安價ニシテ效能本位ノ家庭賣藥調合
京都市出町今出川上ル　出町藥局　藥劑師

處方箋調劑 衞生百貨 計量器販賣
河原町通荒神口上ル(電停前) 衞生堂チェーンストアー　西川藥局

醫藥工業 寫眞用藥品 化學用品 和洋賣藥 試驗用器械
京都市河原町丸太町　山下藥局　藥劑師山下

醫藥品、化粧品 食料品 度量衡器 計量器
京都市上京區熊野神社前(電車停留所前)　東山藥局　振替口座大阪

醫藥一般 化學用藥品 新藥血清類 度量衡器計量器
京都市古川町三條南　織田藥局

處方箋調劑 衞生百貨 計量器販賣 京都帝大各教室御用
京都市河原町通荒神口　亀若藥局　振替大阪

學友會各部主催の 高校專門校爭霸戰
各種大會の日取決定

學友會各部主催にて例年の通り高等專門學校優勝爭霸戰を左記の日取に依り擧行する事に決定した

端艇　八月一日全國中等校優勝戰八月二日四高對六高、七高對八高、松江高對松山高、大坂高對高知高對校レース後援、關西高等專門學校競漕大會

柔道　七月十五日より三日間一回戰十九日より三日間關西優勝戰、廿二日對九州優勝者戰、廿三日全國決勝戰

弓道　七月廿日より三日間優勝競射大會

劍道　七月十九、廿日豫戰、廿一日優勝戰、廿二日決勝戰

庭球　七月十七日より七日間關西廿六日對九州決勝戰

水泳　廿四、廿五日優勝競泳大會

野球　七月十八日より六日間關西豫選大會、廿九日、卅日全國決勝大會

週間京都武德殿に於て行はれる事に決定した、然し一大學内の一運動部の事業として其大會は一方地理的關係上その範圍が全國に及ばなかつたが本年よりは東京、九州、東北の三帝大も共に吾人の精神と使命に則つて同種の優勝大會を開催する事となつた、四帝大柔道部は昨年來數度の協議の結果相提攜する事となり各主催の範圍を協定し各地に於て同時に大會を開催しその優勝者を更に京都に會せしめて最後の全國優勝校を決する事になり、かくして今夏よりは愈『名實共に全國的』なる大會が擧行せられる事となつた

大會を眼前に控へて各高等專門學校よりの通信によれば各自必勝を期するの自信益々強く默々として猛烈なる練習を積んでゐるらしい光輝ある傳統と巧妙熱心なる練習の堅城による六高軍、昨年勇名を馳せた四國松山高校の當るべからざる豪勇此二者は下馬評の興味の中心をなしてゐる、四高三高八高松江等皆近年稀なる充實せる實力を擁してゐるらしく、その勝敗は豫想の限りでないが兎も角龍攘虎搏の壯觀を現出するであらう

弓道大會

弓道部は每年七月、全國高等學校專門學校の弓道優勝會を主催する事になつてゐるが大正五年を第一回とし、本年で正に第十一回目である。參加校も亦年と共に增え質に於ても向上して來た。弓道を練磨しその眞髓を理解するのは勿論これに携はる者自身の勤めであり又かくする事に於てのみ眞の意義は發見せられる。けれどもこの目的到達の爲めには善良なる補導手段の必要は亦言ふを俟たないであらう。弓道部がこの點に着目し專門學校高等學校の弓道の統一と向上とを計りこの爲めに每年本競射大會を開催する事となつたのである。

參加校數二十數校、參加選手百數十名、元氣潑溂たる男の子が七月の炎熱を物ともせず渾身弓を引き絞る壯觀は思ひ見るだに心の躍動を覺える。

本大會は會長に荒木總長を戴き審判は部長師部先生、監督田島先生及師範笠原範士それに武德會の小笠原範士を煩はして居る次第である。かく斯道の大家を網羅して居る事は本大會をして一大權威あらしめる所以であつて、主催する弓道部の誇りとする所である。

本年の大會は七月十九日の夜本館階上に參加校全選手の歡迎會を催し、翌二十日から三日間競射を行ふ事になつてゐる。選手は一校五名、一人一日持矢八射の豫定である。昨年は總矢數百二十本中的中數九十七といふ素晴らしい成績で六高が優勝した。本年の覇權何處の手に落ちるか、北は北海道大學の豫科、南は七高造士館、全國各地の精銳が一所に會して中原の鹿を逐ふ壯觀こそ今夏の見逃すべからざる一イヴエントであらう。

柔道大會

本邦柔道界に至大の刺戟と興味とを與へてゐる本學柔道部主催の全國高校專門學校柔道優勝大會は恒例の通り今夏も七月十四日の本大學棟上に於ける歡迎會より向ふ一

踏破す幾山河
旅行部の登山計畫發表
準備打合會は來る二十八日

學友會旅行部では例年の通り夏季登山計畫を左の通り發表した

◇一班（燕、槍、乘鞍）
一日松本—中房溫泉
二日燕岳—天井岳大槍小屋
三日槍岳—上高地溫泉
四日燒岳—平湯
五日乘鞍岳—白骨溫泉
六日松本

◇二班（白馬岳より黑部）
一日松本—大町—四ツ家
二日四ツ家—白馬尻—白馬頂上小屋
三日滯在（白馬岳、小蓮華、大日岳、大池）
四日杓子岳—鑓ヶ岳—唐松岳—八方小屋
五日大黑鑛山跡—祖母谷溫泉—鐘釣溫泉
六日宇奈月—三日市

◇三班（立山、劍、針ノ木峠）
一日富山—藤橋
二日弘法茶屋—室堂
三日雄山往復
四日劍岳往復
五日五色ヶ原—平小屋
六日平小屋—針ノ木峠—大町—松本

◇四班（藥師岳、槍岳、上高地）
一日富山—芦崎寺
二日鉢伏山—有峰
三日藥師岳—上ノ岳小屋
四日黑部五郎岳—蓮華岳—双六池小屋
五日槍岳—槍澤小屋
六日上高地

◇五班（烏帽子、槍縱走）
一日大町—濁
二日烏帽子—野營
三日三ツ岳—野口五郎岳
四日赤手岳—黑岳—赤岳
五日鷲羽—蓮華—双六—硫黃澤
六日槍岳—上高地

◇六班（大和アルプス）
一日吉野泊
二日山上ヶ岳—柏木
三日大臺ヶ原山上泊
四日北上川に沿ひて南行し、浦田泊
五日浦田—瀞八丁泊
六日瀞八丁（舟行）新宮—那智—勝浦

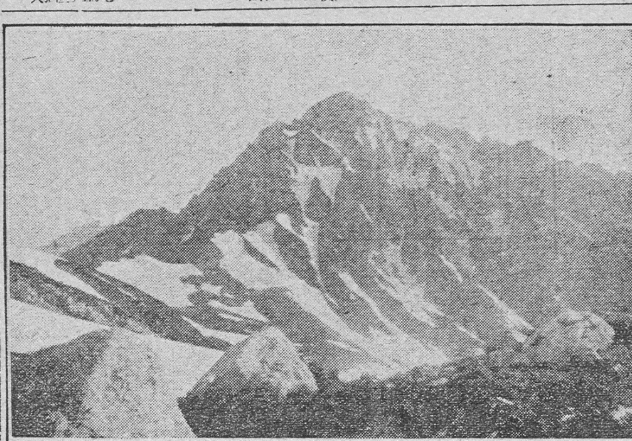
◇七班（上高地小屋生活）
本年は上高地に新設の小屋を借り切るとになつた、この小屋から槍穗高笠岳等の登山ロツクライミングの練習等が出來る。
但食料は全部自辨
尚希望によつては別に班をつくることも出來る由、その打合會を來る廿八日（月）から學生集會所にて開く、參加者は當日又はそれ以前に本館內旅行部室までへ申込おくこと、但申込金は不要

ヌルミを見る
―伯林にて―
醫學部助教授　木村廉

超人ヌルミの名は、苟くも運動競技に多少とも興味を持つものには餘りに知られ過ぎて居る。從つて余の如きが茲に彼に就て多くを述べることは全く不必要なことであり、又出來もしないことでもあるが、偶然此地に於て彼を見る機を得た、而も彼が又も世界記錄を破る疾走振りを見得たによつて一言その有樣を話して見やうと思ふ。

一體ヌルミの名が世界的になつたのは、かの一九二〇年のアントワープのオリムピック以來であるが、その四五年前から彼の生れ故鄕アベー市附近に於ては、既に可なりの名聲は揚つて居つたのであつた。然しその頃の記錄は、千五百米突四分三十七秒八、三千米突九分三十秒と云ふやうな現在の日本記錄にも大分劣るやうなものであつた。然るにその後年々歲々彼によつて作らるゝ記錄は眞に驚異に値するもので、一九二四年パリーのオリムピック大會で千五百米突に三分五十三秒六の世界記錄を出してから僅一時間半の休憩後、再び五千米突に十四分三十一秒二の世界記錄を作るや、超人の名は愈高くなつた。その後彼のアメリカに於て示した成績は未だ人々の記憶に新な處であつて殆ど連日に亙つて記錄を破つたのである。されば『ヌルミ來る』この文字が伯林當地の廣告柱に現れるや、伯林人士は老も若きも一齊に非常の興味を以て、彼の雄姿に接する日を待つたのも當然の事である。終にその日は來た。五月二十四日、フイングステン祭日の第二日は、夜來の雨も名殘なく霽れて晚春の氣は肌に爽かにカスタニエンの新綠は殊に鮮かである。されば四時開始の競技會の爲め、スタヂオンを指して蝟集するものは或は汽車、電車、地下鐵道、自動車などを馳せ、定刻前にはさしも廣大なるスタヂオンも殆ど空席を餘さずその數凡そ五萬と註せられた。四時になると先づ百米突豫選、決勝、二百米突豫選、ジャベリン、ブロード等が行はれたがその成績は餘り大したものでなく僅にヌルミの爲めに前座を演ずるもの〻樣であつた。たゞ千五百米突でステチンのドクター、ペルツアーなる男が悠々衆を壓して三分五十八秒六の記錄を出した、自己の保持するドイツ記錄を更に一秒ばかり短縮したのは見事であつて殊にヌルミの鼠を壓せんとして居る。吾國で縄田君の四分七秒八が驚異的とせられて居る時、餘り世界の運動界に知られない獨逸にもかゝる優秀なるランナーのあることに吾々は寧ろ驚いたのである。（未完）

Eine Sensation für die Photographen: Nurmi macht sich zum Laufen fertig.



比良ヶ嶺に結ぶ キャンプの一夢
樂しかりし我が旅行部の催し

六月五日午前八時半京津電車上集合、一行十八名大津に至り江若鐵道で約一時間、比良口で下車。ここより目的の蓬萊山までは約六十町、蓬萊山は比良山脈の南方の最高峰海拔約三千六百尺北の高峰武奈嶽と相對峙して居る。山頂は樹木なく西方に緩傾斜をもつ廣い草原がありこの草原の西南に小女郎池といふ靜かな美しい池がある。この池畔がキャンプに好適地、比良口から山にかゝるまでの道はゆるやかに起伏した丘陵の新綠の林を縫ふて歩くので氣持が良い。山に這るに從つて道は溪流に沿ひ相當急坂である。眼界は一歩々々と廣くなつて四方の遠望を樂しむとが出來た。山頂に着いたのは午後三時、軈て池畔に三つの天幕が張られて吾々の一夜の樂しい家が作られた。米を洗ふ者眼を赤くして火を燃す者或は薪を背負ふて歸つて來る。我等は何の不平もない。夕陽を浴びて夕餉の焚火を取り圍んで自分で炊いて自ら食ふ時の樂しさ旨さ、キヤンプによつてのみ初めて味はひ得るであらう。夕霧は深い溪間から昇つて來る、濃い靄に包まれて夜の訪れるのは早い。夕暗を照す篝火を中に話も次第に絶えて深山の靜けさから起る不思議な驚と心は奪はれて行く。一人減り二人へり何時のまにやら皆天幕の中にもぐり込んでしまつた。山の頂の朝の訪れは早い、深い朝霧の中にもろ〳〵の小鳥の囀りが耳にひゞく。さめるとを知らぬ寢坊連もその朝に限つては早や起き出でゝ曉の薄明りに焚火をして日の出を待つた。午前九時樂しかりし一夜の名殘を池畔に止めて西阪下村に降り、花折峠途中越を經て大原八瀨に出で午後七時歸洛。

憧れの海へ!!海へ!!
胸をひろげて我れ等を待つ 洲本のサムマーハウス

炎熱の陽光は我らを水へ水へと誘つて行く、紺碧の空、藍青の海、白砂の濱、そこには唯大自然の惠みあるのみである。恒例によつて本學サムマーハウスも來る七月十日から向ふ一ヶ月間淡路洲本の海濱で開かれることゝなつた。ハウスは磯邊を去ると僅に數十歩の所にあり、周圍には千年の老松群立してそこには涼風たえず訪れる。海水は數尋の底までも透き通る樣に清く、波は又綠の岬に妨げられて海面は湖水の樣に靜かである。何人も一度このサムマーハウスを訪れたものは絶好の避暑地たることを推賞して已まないであらう。附近には、鳴門の絶景あり先山の名所あり汽車で一時間福良の港あり、日歸り旅行の樂しみも亦つきない。

宿舍は百八十餘疊敷の大廣間ある武德殿を借り宿泊料食費共一日一圓三十錢で濟ませる。

この地へ行くには大阪、兵庫よりは攝陽汽船は每日出帆し淡輪洲本間は一日數回の往復あり又明石よりは海上二十分で岩屋に達しそこからは自動車で一氣に洲本に着くことも出來る。尚今年からは大阪天保山午前八時發の洲本直行船を利用すると僅二時間半で洲本に着くことが出來る。

詳細は本學各門に印刷物を揭示してあるから學友諸兄は擧つてこのサムマーハウスを利用されん事を希望する。

我が庭球部 九大と戰って大に捷つ

本學庭球部は去る四日午後七時八分の特急で當地出發。六日午前十時より九大醫學部コートにて九大と試合を行つた。經過左の如し

◇ダブル
京大　九大
○3（大村・長谷川）六—一〇、六—三（西淵・鵜）
○2（矢崎・藤田）六—四、六—二（藤田・星野）
○1（川上・八木）六—三、六—二（山中・吉田）

◇シングル
京大　九大
○1 大村　六—四、六—二　宮園
○5 藤田　六—二、九—七　淵
○4 川上　六—一、六—三　吉田
○3 八木　五—七、六—一、六—四　星野
2 長谷川　三—六、四—六　藤田
1 矢崎　七—五、六—二　山中

愉快なりし十八日の 學內アマチュアー競漕
參加クルー數實に二十有四 高校決勝戰には南溟團優勝

瀨田の綠彌深く石山の螢出盛りの六月十八日本學創立記念日を祝し、短艇部が大正十五年を記念する意味で學內一般のアーマチュアークルーを募つて記念レースを擧行した、梅雨中の事とて雨を懸念したが當日は絶好のレース日和で定刻午前十時前には既に中の島公園は本學學生で黑山のやうだつたボートの廻送が遲れた爲め午前十時二十分第一回六陵會（六高出身工科）對鵬揚會（弘前出身）より始む

田島先生を會長、審判長に仰ぎ田中、竹內、原、中西、武安、三好、大庭各委員各役員を交代分擔し參加クルー實に二十四、尚出身高等學校を明記したクルー中より選拔して對高等學校の優勝戰を行ふことにした爲め、レース回數十四回

當日初めてボートに乘つた連中もあれば、高校時代鳴らした連中もあり、早い朝食に空腹を我慢して出る連中（或は朝寢坊して朝食も十分でなかつたかも知れぬ）食直後鼓腹して出る連中もある。勝つても負けても平等に粗末な賞品手拭一筋を鉢卷、首卷、腰下げて呵々大笑、和氣藹々アマチユアーレースとしては未曾有の盛會であつた

◇午前中ノ分（○印勝）
（石山コース）（瀨田コース）
○六陵會——鵬揚會
○神陵會——外語團
○高知B組——LES・AMIS

◇午後ノ分
○南溟團——北辰會
造七館——○龍南會
○無機化學——弘前A組
高知文科——○化學教室
○陸上部——小兒科

◇對高等學校戰第二豫選
○六陵會——神陵會
龍南會——○南溟團
○鑛物學教室——六高文科
○學生監室——總務クラブ
○高知G組——弘前C組
陸上部第二——○船頭組

◇對高等學校戰決勝レース
六陵會——○南溟團

決勝レースの結果は南溟團が優勝した、時に午後四時、引續き短艇部々員が文科理科に分れてスライディング・シックスのレースを行ふ、例によつて審判艇は六百米突でも中途からでないとボートに附けぬ、短艇係唐橋の上からヨーイドンの處でピストル不發、調整してピストルが鳴つた時は兩艇共等しく一艇身流されてゐたのも又面白い、理科勝（委員橫田記）

奈良坂越にて
鹿の都へ馬で行く記
醫學部　橫澤辰雄

新綠の初夏の風が薫るやうになると奈良が思ひ出される。馬術部に奈良の懷しいのも無理はない、馬とは大に仲よしの鹿の都だもの。自分の指揮した第二班は六月一日天にも地にも初夏の氣が滿ち〳〵て絶好の遠乘日和、人も勇めば駒も嘶く。晴れ渡つた空の下に初夏の風を心地よく浴びながら淀の川土手に差覺る、時々京阪線を電車が飛んで行く、そのすごい物音に跳上る馬もゐる。河沿ひに新綠の原を眺めつゝ淀の町に入つた。ここで小休止、淀の大橋を渡れば一面の青草原河土手には月見草が咲き亂れて居る、河の景色にも大部あいた頃恰度男山八幡に着いた。此處で大休止。卅分馬の手入れをして飼付けをすませ一汗ぬぐひながら握り飯に舌鼓を打つた、一時間半の後八幡を出發。これから眞白い奈良街道が續いて居る。單調の道にあきて人も馬も漸く疲れたのは四時頃だつた。もうすぐ木津へ出るからと互に云ひ合ふて居る中に木津川の白い河原が見え出した、急に元氣が出て自然に馬の足も速くなる、この頃夕日は遙か男山の彼方に沈み駒は道を急いでしきりに嘶く。河を隔てゝ向ふには小高い丘陵が幾重ねも續いた奈良坂が見える。あれを越せば目的地の奈良の都があるのだ。駒を勵ましつゝ木津の町を過ぎて奈良坂にかゝる。長い坂道を引馬で行く漸く越えて奈良の町へ入つたのは七時近い。馬を馬車市に引き入れて一時間の手入れ、空には星がまたゝいてゐる。自分も疲れたが無理にも大聲出して『左後足五分間』と叫ぶ、皆一生懸命に足をこする、一生懸命やるので非常に嬉しかつた。馬房に馬を入れて宿に夕飯の膳を圍んだのが九時近くだつた。

六月二日は七時出發、鹿をお伴に公園を馬上散策と洒落れた、鞭を擧げて奈良の都を後にしたのが八時。木津の河原で遊んだ二十分は馬の足を冷して疲れを休めてやつた。木津の土手を月見草の間を分けて歸りを急ぐ、玉水、長池を經て新田の神社で大休止になつた、奈良から持つて來た奈良漬むすびを頰張る。これから一氣に京都近くへ出て桃山近くるとき一班の連中が迎へに來て呉れた、互の姿を見た時は、思はず帽子を取つて振つた、駒は友の顔を見て頻に嘶く、厩舍についたのが六時近くであつた。

甲寅會の戰績

陸上競技

六月十二日午後一時より本學グラウンドにて擧行、工業化學及建築科は最初より棄權

種目	土木	機械	電氣	採冶
百米	0	6	5	0
砲丸投	0	5	4	2
走高跳	1	5	5	0
千五百	7	0	0	4
鎗投	0	7	3	1
二百リレー	2	3	5	1
圓盤投	2	5	1	1
四百米	3	7	0	1
走巾跳	0	8	3	0
四百リレー	2	5	3	1
合計	17	51	29	13

尚この外來賓及び一般の提灯競走もあり、戰後の茶話會に興じて五時過ぎ散會。

端艇

六月十三日瀨田川にて擧行せられた。數回のアマチユアレースの後對教室のカツプ爭奪優勝競漕が行はれ土木先づ電氣に勝次いで建築採冶を抑へて決勝戰は建築對土木の間に開かれた。漕路逆行六百米突、建築力漕して初めより土木を拔き其儘進んで結局一艇身の差を以てゴールに入つた。尚昨年の勝者機械は京機學會のため棄權した。

野球

六月十一日午後二時より本學グラウンドにて甲寅會野球大會が開かれ先づ機械對採冶戰に始まつた、初め機械の調子不揃に乘じて採冶四回迄に九點を入れしが其後機械陣容を立直して得點せしめず加ふるに每回確實なる得點をして結局十八對九まで漕ぎつけ採冶の惜敗に了つた。機械對建築戰は十六日午後五時より開始、前半に於て建築四點を得たりと雖も機械試合慣れして一二回に一點三、四回に各二點を入れ尚六回目に一擧四點を入れて大勢を決し土木、電氣、工業化學の間の勝者と決勝戰を開くことになつた。

我が弓道部優勝す

關西學生弓道聯盟第二回競射大會は去る十三日午前九時より本學道場に於て行はれた。加盟校は京大三高、大高商、大醫大豫科、神高、關西學院の六校、何れも關西に於ける斯界の猛者である。接戰の末左の成績で朝日新聞寄贈の優勝杯は我部の手に歸した（寫眞は優勝した我弓道部員）

▼京大五十九中▲大醫大豫科五十七中▲關西學院五十六中

學生より教授への希望
中村三郎

講義に際し自著或は他の學者の著書を教科書として説明評論せられる先生が近來漸次多くなつた事は誠に喜ばしいことです。筆記本位の講義は徒らに多大の時間を要し而もその効果が少いやうに思ひます。著書がなければお手數でも講義の要點をプリントにでもして頂けば幸甚です。さうして講義に當りては先生獨自の主觀に基いて徹底的に評論せらるゝやうお願ひしたいものです。

京都醫學會例會

廿三日午後三時卅分より醫院西講堂に於て京都醫學會例會開催

所謂レイモン氏症候群等を有する一例　木村

可移植性家兎肉腫の發育及移植に關する實驗的血液學的研究　長岡德太郎

顯微鏡活動寫眞供覽（日本住血吸虫に關して）　福谷滉

リンカーン賞 懸賞英文募集
締切は九月末日

米國イリノイ州スプリングフイールド市に於ける『リンカーン』百年祭協會に於ては今般廣く世界各國の學生に對し偉人リンカーンの崇高な人格を研究せしめ、併せて米國建國の精神を普及せしむる目的を以て懸賞論文（英文）を募集し優秀者にはリンカーン賞を授與することゝなつたがこの企ては米人理解の一助ともなり且語學獎勵の方法として有益なる爲め日米協會が仲介の勞をとつて本邦學生よりも左の項目に就いて應募を勸誘することゝなり、本學にもその通知があつた。

一、懸賞英文課題
『リンカーン』の事蹟、又は之に關する批判
THE LIFE OF LINCOLN

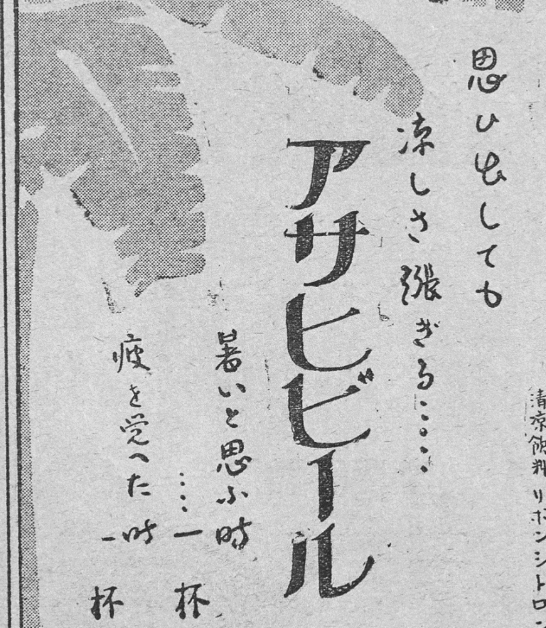
二、英文は三千語以內なること

三、應募の資格
高等科、官公私立專門學校以上の男女在學生（一等一人二等二人）
普通科、官公私立中學校男女在學生（一等一人二等二人）

四、締切期日、大正十五年九月卅日

五、送付先、東京市麴町區內山下町帝國ホテル內日米協會

尚詳細に就ては學生監室か或は新聞部室へ問ひ合はされたい



リウマチス
神經痛ニ
アトフアン

本邦醫界の大家と新進の間に於て賞用せらるアトフアンは獨乙のニコライヤー・ドウルン兩博士の藥物學的研究に成り強力なる消炎鎭痛作用並に尿酸排泄增進作用を有することを闡明せられしものなり

アトフアンは之等の作用の綜合的効果として急性、慢性のリウマチス神經痛を迅速に鎭靜せしむるものなり。之全くアトフアンの効果が原因的にして合理的なりと賞讚せらるゝ所以なり

急性リウマチスは一日四回アトフアン錠一個宛服用により、慢性患者は數日の服用により疼痛は迅速に鎭靜し局部の腫脹及び潮紅は消退す

諸種の藥劑にて無効なりし頑固なる神經痛がアトフアンの應用により治癒したる例の如きは枚擧に遑あらざる所なり本品は副作用なく應用に便宜なるを以て本品により一日も早く病苦を除去せられんことを望むものなり

【適應症】急性、慢性リュウマチス、神經痛、痛風、腰痛、關節炎、蕁麻疹

日本總代理店　大阪市東區道修町　田邊五兵衛商店　振替大阪八六七番
東京市日本橋區本町　田邊元三郎商店
全國有名藥店にて販す【説明書進呈】

At 68

南都七大寺巡禮 ………（六）………

小島羊村

元興寺

往時は南都七大寺の一に列しその草創の古きこと法隆寺と比肩し得る地位に在りし元興寺も時代の推移と共に頽廢の悲運に遭ひ、現在では奈良市内芝新屋町に堂僅か一宇その名のみを傳へてゐるに過ぎぬのである。

抑、當寺は推古天皇の御時、聖徳太子、蘇我馬子と共に高市郡飛鳥の地に創建されし法興寺に始まり、後元興寺と改稱され、降つて元正天皇養老二年現在の地に移建されたものである。

移建以後の堂宇としては大金堂を始めとして東金堂、講堂、食堂、中門、觀音堂、五重塔、南大門等、七堂伽藍の盛を極め堂々たる大寺であつたが、其後幾度か祝融の災に遭ひ、僅に殘存したる五重大塔、觀音堂も安政六年に燒失し現在では五重塔の礎石と假觀音堂一宇を殘す程廢頽の極に達し終つたのである。

芝新屋町御靈神社の北、元興寺石標の立つ小路を入ると、其處に五重塔址の土壇があり、現在「正一位吉高大明神社務所」と呼ぶ茅屋一宇が立つてゐる。中央の礎石は建物の下敷となつて見えないが周圍の十二個の礎石は建立當時の立派なものが殘つてゐる。

觀音堂内安置の本尊金色十一面觀音木彫立像は天平期の作品にして和州舊跡幽考に依れば大和長谷寺の觀音を彫刻した第二の靈木にて造られたものと云ふ。勿論國寶である。

尚奈良市内に在つて元興寺に關係のある寺として極樂院、十輪院の二院を紹介したい。

極樂院は現在では眞言律宗西大寺に屬してゐるが、往古は元興寺の一宇で元正天皇の靈龜年間飛鳥法興寺の仙光院を移建したもの、一に極樂坊と呼ばれ元興寺の學僧智光法師の止住せし處と傳へられてゐる。

當院として見るべきものに本堂（四間四面單層屋根四注造）及び禪堂（四間五面單層屋根切妻造）の二棟建物がある。天平時代に創建され鎌倉時代の改造を經たもの、特に其屋根が面白く、行基葺と云つて珍らしい形式を持つてゐる。本堂内安置の本尊阿彌陀如來木彫坐像は國寶である。

十輪院はもと飛鳥坊と呼ばれ元興寺の一院であつたと云ふが、その開創には諸説があつて一定しない。寺傳では靈龜元年朝野魚養の創建と云つてゐる。

十輪院は弘法大師御作と傳へられてゐる護摩堂本尊の地藏石佛で名高い。地藏を中央に左右に釋迦、彌勒兩菩薩の半肉彫があり、その他金剛、密迹の二力士像、四天王像の石佛彫が相倚つて一つの大なる佛龕をなしてゐるのである。之等の石佛は勿論同時代の製作では無い。後世種々の石佛を集めて一つの石窟を造つたのである。就中本尊左右の兩菩薩像は優秀な作品である。

此の他十輪院として見るべきものは本堂及び南門である。本堂は五間四面單層屋根四注造で、鎌倉時代の再建に係りその低平な感じの好い屋根と、美しい蟇股を持つ貴重な堂宇である。境内には魚養の墓と云はれるもの、其他數多くの石佛がある。巡禮者は一度は必ず參詣すべき寺であらう。

高市郡飛鳥の京に建立された法興寺即ち飛鳥寺の址は現在夢山安居院と稱する小堂一宇、僅に往時の面影を傳へてゐるに過ぎない。土地では飛鳥大佛と呼んでゐる。大軌電車畝傍橿原神宮前より東方約卅町飛鳥村字飛鳥に在る。堂は軒傾き壁朽ちて頽廢の極に達してゐるが堂内に安置する本尊金銅丈六釋迦如來坐像は現在せる佛像中本邦最古のものにて、鞍作鳥の作と傳へられ、日本書紀推古天皇十四年の條に「夏四月乙酉朔、銅繡丈六佛並像造竟、是日也、丈六銅像坐二於元興寺金堂一」と見えてゐるのが即ち此の佛像のことであると云ふ。像は破損の箇所多く補修の跡も甚だしいがその面相には止利式の面影がうかゞはれ、グロテスクな相貌の中にもまた何物か捨て難い趣のあることを看取することが出來る。

本尊の禮拜を終つて堂を出て杳か飛鳥の京の山河を望み見る時、巡禮者の胸には何か強く迫り來るものがあるであらう。

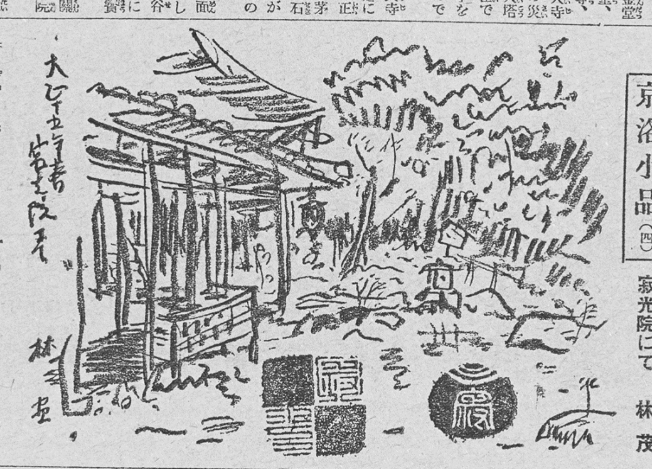
行春や飛鳥の寺の古瓦

（附記）法興寺と元興寺は元來同一異名の寺と云ふ説と全然異ると唱へる者と論二派に別れてゐるが余は暫らく前者を採る事にした。

（寫眞は十輪院石佛）

京洛小品（四）

寂光院にて　林茂



同好會の 南紀旅行記

吉田生

瀞峽の中程に二戸の旅亭がある。船を止めて瀞亭に至り辨當を開いた。瀞亭は山の中腹に在つて、欄に倚れば眼下に淀む瀞の清流を隔て、靑黒い色の更けた奇峰の眉を壓して迫つて居る。辨當を終つてからは繪葉書を認める者河鹿の鳴く音に居眠りを催す者或は宿の記名帖に『山深くセル着る人に逢ひにけり』『瀞峽に舟を浮べて春の暮』などと雅筆を揮つて居る者もあつた。時に大粒の俄雨が沛然として降つて來た。山深い峽谷に亂れ降る逝く春の雨は實に寂然たる響である。我々は思はず恍惚として雨を眺めて居た。時しも遲れた小型の僚艇が爆音をあげて篠衝く豪雨の中を進行して來た。茲で三艇の乘員全部揃つて瀞亭下の洲上に記念の撮影を了し、下江し始めたのは正午であつた。急流に乘つた飛行艇の速力は實に疾風の如く、一時有半にして十四里の峽谷を下つて新宮に着いた。古人の所謂『千里の航程一日にして還る』といふのは正しく是であると思つた。新宮では各自隨意に神社、浮島、徐福の墓等を參觀して午後三時新宮驛に集合し、三時十分の汽車で那智に向つた。那智驛より八臺の自動車に分乘し、約二十分にして那智山の麓に着いた。それより徒歩で上る七町の山路は多く石段で、兩側に千年の老杉が鬱蒼と立ち並んで居る。雨は漸く老杉の梢を掠めて降り出し、雫が汗ばむ肌に沁みて爽快である。御瀧の前に來れば雨中を飛落する直下五十丈の瀑流はしぶく水烟の中に沒して、瀧壺より青葉の中を流るゝ溪谷は一面に霧を吹いて居る。雨中に瀧の茶屋に少憩の後自動車で那智驛に歸り、午後六時半の汽車に乘つて勝浦に歸つて來た。勝浦では我々を迎へる二隻のモーター・ボートに乘つて溫泉旅館浦島に着いた。旅館は恰度前面は港で後と左右は山を廻らして居る。旅館專屬のモーターボートによるの外は何處にも行くことが出來ない。船、汽車、自動車、徒歩と一日中の活動に疲勞した一同は浴衣に着更へて溫泉に浸つた。夜は大廣間で懇親會を催し、疲勞の中にも歡談、餘興の盛況が遲く迄止まなかつた。一泊して翌朝は豫定の旅行を終へて解散したが、殆ど全部の者が午前八時半の急行船に乘つて歸路に就いた。出帆に臨んで宿の管理者田代氏の好意で田代氏及子息女中等モーターボートより我々に七色のテープを引いて訣別を惜まれた。恰度旅館には本學理學部講師石川先生が溫泉調査に來て居られ、我々と歸路を共にせられた。尚途中田邊に下船する者の爲めに本學の臨海研究所を紹介して戴いた。田邊に下船した者總數二十四名で、皆白良濱の溫泉旅館白濱館に會合した。白良濱は七景詩に銀砂歩とある地であつて、入海をなす海岸一帶が白妙の如き純白な白砂を以て覆はれ、其の上に風雅な磯馴松が點在してゐる。磯續きの湯崎は既に俗化して人を誘ふに足らないが、白良濱は未だ俗臭に染まない新開の處女地である。白濱館は白良濱の中央に位し、瞰て太平洋の濤音が聞こえ、月夜は磯松原の逍遥に盡きせぬ詩趣がある。それに旅館が新しくて田舍には稀な文化的施設が行き屆いて居る。土地會社の經營である爲めに使用人に露骨な營利の觀念が無いのは特に氣持がよい。我々は此の宿に落着いて初めてゆつくりと旅情を味はふことが出來た。一泊して翌朝は本學臨海研究所差廻しの發動汽船に乘つて研究所に行つた。井狩氏の御厚意で茶菓の饗應を享け、種々の珍らしい機械又は海產物の說明を聞き乍ら見學した。研究所は白良濱より磯傳ひに行けば、約卅分程の地に在つて、三方太平洋の海をめぐらし、全く人界離れた大自然の中の別天地である。前海には二見に似て美しい圓月島が浮んで風光も極めて明媚である。正午頃辭して一同白濱館專屬の發動汽船で綱不知に至り船中で、午後一時半田邊發の大阪商船琉球丸に乘つて一路歸途に就いた。（終）

學生監室から

◇履歷書と戶籍謄本の提出を怠つてゐる人があつて整理上困るさうですから至急學生監事務室まで屆出る樣注意がありました

◇又宿所屆も至急お出し下さい之は稽本館の受付に用紙があるからそこでお書きになればよい移轉の場合も同樣屆が入ります

彼岸から花まで

江彥

今くべし粉炭の一つはぜかへり物思ふ顏打ちて飛びけり

痛く烟るを怺へて吹けばパッと燃えぬ文殼燒く夜寒う更けたり

床のべて電燈消せばぬくぬくと部屋にこもれり文殼の香

夕暮れぬ歌の中山石の碑の南無妙の字の恐ろしう見ゆ

窓あけて文よむ宵となりにけり庭の若葉はそよ風にして

春拾遺

小川五郎

かぎろひの春の丘べにつくつくし摘みつゝ思ふ人はむなしき

うちなびく春のひざしにきらめきて辛夷の蕾犬にむきたり

孟宗藪に蕗の臺つみ獨り居り晝ふかうして鶯の聲

細莖のたちの可愛さ竹林に蕗の臺つみて晝たけにけり

五月歌抄

勝利

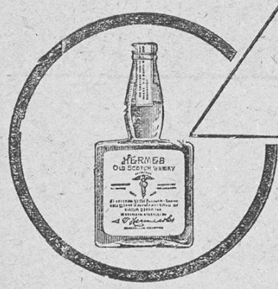
暮れ早き土間の隅處に積まれたる鰯は青き光たもてり

屋敷町赤きかなめの垣續きひつそりとして晝のあかるさ

くせづきて遲きめざめやけふも亦あさけの飯に我もれにけり

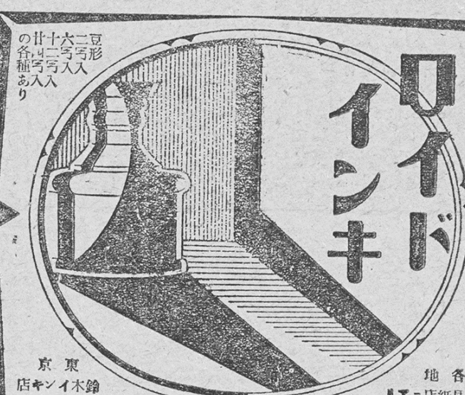
ヘルメスウヰスキー

醉を買はんとならば世界の名酒の醉に如かず



H 209

ロイドインキ



豆形 二号入 六号入 十二号入 廿号入 の各種あり

各地文具紙店ニアリ

東京 鈴木インキ店

和洋古書高價買入れ

◇藥書又は電話にて御報次第參上
◇値段不安を感ずる方は書面にてお問合せを乞ふ
（電話にて値段お問合せは謝絶す）

京都市三條寺町東入（北側）

古書專門 杉田大學堂

永年家業勵み居り候。お引立の程願ひ上げ候。

純獨逸式 ユニオンビール 最高級

舌頭に印するビールなるが故のうま味！
そのうま味のなかに溶け込まれたる高き營養價！
そこにビールを飲む意義がありユニオンを撰む必要がある……

日本麥酒鑛泉株式會社

運動家の飲料としての サクラビール

―元氣はこれより 健康はこれより―

(57) 帝國麥酒株式會社

滿山靑葉につゝまれた淸瀧
河鹿鳴く淸瀧川のせゝらぎ
捨てがたい風情があります

御料理 御旅館 ますや

洛西愛宕山下清瀧 電話サガ一三五番

大學を初め諸學校の宴會等には他の追隨を許さぬ勉强振り……
何卒益々お引立の程お願ひ申上ます

日本一安い保險料
保險契約者の大福音

利益配當附 新種養老保險

（營業案内贈呈）

日比谷公園前 東京 愛國生命

商品券部 全國著名商店 商品券を買ひます

烏丸太町上ル カラスマルハウス 電上三六三四

最も完全な既成品を賣る店

總ての點に安心出來るモリタヤ製の品

株式會社 森田屋洋服店 烏丸太町